

F-17 明治以降における家政に関する教育の発達について(第1報-1)
東京家政学院大家政 手塚六郎 中村ヨシ O 亀高京子 熊田知恵
板谷麗子 三東純子

目的 家政学の形成過程に焦点をおきながら、各時代の特性との関連において、家政に関する教育を総合的に考察する。ついで現代および将来における課題を探ろうとするものである。今回は明治初年から18年を第一期として考察した。

方法 明治初年から18年までに主として学校教育で用いた家政書を、各研究員は共通にとりあげ、家政学原論、被服、食物、家族経済の各分野を中心に総合的に考えることとした。第1報-1では総論及び全体を通して、著者の意図、女子教育観を中心に考察した。

結果 家政に関する教育は、女子教育の主要な部分であり、当時の生活観・女性観を反映している。初期の急激な文明開化、欧米的男女平等思想が、わが国の「家」制度の中に浸透していく過程を著書の中に見ることができる。すなわち、そのまゝではわが国の実情に適さないといわれた翻訳的家政書は、その後の著書に家庭管理の重要性を実学の向上的指導という形で影響を与えた。そのことはわが国の伝統的家政書との折衷と思われる家政書の続出によって示されている。家政書に共通的にみられる考え方は、家政を経済(あるいは儉約)の手段とみることであつて、食物、被服、その他の各論は儉約のための技術論と考えるべきであらうと思われる。